

韓国の「2019 改正ヌリ課程」に関する研究

A Study on the “2019 Revised Nuri Curriculum” in Korea

林 韓 燮

Hanseop Yim

(要 約)

本研究では、韓国のヌリ課程の導入及び改正の背景を紹介し、「2019 改正ヌリ課程」の主な内容について検討することを目的とする。2012年にスタートしたヌリ課程は、2019年に幼児中心・遊び中心の教育課程へ大きく改正された。改正ヌリ課程の特徴は、幼児中心・遊び中心の教育課程、国家レベルの教育課程としての構成体系の確立、内容構成の簡略化を通じた現場自律性の拡大、教師のヌリ課程の実行力の支援であり、これまで結果中心であった「学び」からプロセス中心の感覚的活動である「遊び」へと転換することが期待できる。制度を成功させるためには、教師の専門性の強化、保護者の遊びに対する認識の改善、室内外の遊び空間の整備などの支援策をどのように実行していくのが今後の課題である。

(キーワード)

韓国の幼児教育・保育、2019 改正ヌリ課程、共通教育課程

1. はじめに

子育て世帯を応援し、社会保障を全世代型へ抜本的に変えるため、2019年10月から幼児教育・保育の無償化が全面的に実施された。これは、生涯にわたる人格形成の基礎を培う幼児教育の重要性や、負担軽減を図る少子化対策の観点から取り組まれたものである（厚生労働省 2019）。一方、少子化が進んでいる韓国では、日本に先立ち 2012 年から無償保育政策が施行された。これは、親の子育て負担を軽減し、円滑な経済活動を支援することとともに、幼児教育・保育の質を高めることを目的とした政策であり、それに伴い、教育・保育課程の見直しが行われ、幼稚園とオリニジップ（日本の保育所に当たる保育施設）⁽¹⁾の区別なく同じ教育を受けられるように、共通教育課程「ヌリ課程」が導入された。これら政策には、すべての子どもが夢と希望を持って成長できるように、国の責任のもとで公正な教育の機会を保障するねらいが含まれており、これは、日本の政策においても韓国の政策においても共通しているといえる。このヌリ課程は、国政課題である「幼児教育発展基本計画」において提示された「幼児中心・遊び中心の教育課程の革新」を実現するために大きく改正され、2019年7月に「2019 改正ヌリ課程」が確定・発表された（教育部 2019b）。この新しいヌリ課程の内容について、日本ではまだ十分に紹介されていない。よって、最新の韓国の幼児教育・保育の動向や教育・保育課程について理解する機会を提供するため、「2019 改正ヌリ課程」に焦点を当てて検討することにした。そこで、本研究では、韓国のヌリ課程の導入及び改正の背景を紹介し、「2019 改正ヌリ課程」の主な内容について検討することを目的とする。

2. ヌリ課程の導入及び改正の背景

韓国では、1990年代以降、ますます少子化が進み、2018年の合計特殊出生率は、初めて1.0を割り込で0.98（出生児数326,800人）に下がり、出生統計作成（1970年）以来、最低値となった（統計庁2019）。女性の経済活動が増えるとともに、共働き家庭が増加し、子育てと仕事の両立の負担から出産を諦める傾向が現れ、乳幼児の保育問題は、家庭の問題ではなく、国家責任で解決すべき問題として認識されるようになった。よって、政府は、乳幼児教育・保育政策に対する公共性を強化するため、無償化することとし、2012年3月に二元体制であった幼稚園の「教育課程」とオリニジップの「標準保育課程」を統合し、共通教育課程であるヌリ課程を導入した。ヌリ課程の名称は、公募で決められ、「ヌリ」は、「世の中」を意味し、未来の人的資源への投資として教育・保育に対する支援を拡大し、養育負担の軽減、公正な機会の保障及び健康的な成長・発達の支援をねらいとしている。導入当時は5歳児を対象に実施していたが、2013年3月から3～4歳児まで拡大し、すべての3～5歳児は、幼稚園とオリニジップの区別なく同じ教育課程による教育を受けることになった（保健福祉部）。また、親の所得水準に関係なく、すべての幼児に対して学費及び保育料を支援することで、子育て世帯の経済的負担を軽減させるというねらいも含まれている。ヌリ課程は、幼児の心身の健康と発達を助け、民主市民の基礎を形成することを目的とし、基本生活習慣、正しい人性の形成のための指導とともに、①身体運動・健康、②意思疎通、③社会関係、④芸術経験、⑤自然探求の5つの領域で構成されており、2015年改正が行われ、1日教育課程の運営時間が3～5時間から4～5時間へ変更された（教育部2015）。

ヌリ課程を実施するためには、安定した財政確保が大きな課題であった。李明博政権（2008～2013年）は、ヌリ課程の財源について、2012年～2014年までは、国庫と地方教育財政の交付金で賄い、2015年からは、全額地方教育財政で賄うことにした。しかしながら、2015年から国庫予算を編成しないことに対し、政府と市道教育監（各市道の教育に関する事務の執行機関の最高責任者）が対立し、葛藤が始まった。市道教育監は、オリニジップは法律上教育機関ではないため、地方教育財政で予算を編成することができないという立場を表明し、ヌリ課程の予算編成をめぐる問題は2017年まで続いた。幸い、2017年文在寅政権（2017年～現在）が発足したことで、ヌリ課程の財政安定化が図られることになった。文在寅政権は、少子化問題を克服するために、乳幼児の保育と教育政策を国家が責任を持って遂行することとし、オリニジップのヌリ課程の予算について、2018年から全額国庫で支援する政策を立てた（ヨン・カン2018）。

ヌリ課程の実施により、3～5歳の幼児教育・保育の質の向上や、親の負担の軽減等の実質的効果がみられたが、一方で教育課程としての構成体系の補完の必要性や過大な年齢別教育内容と現場適用の画一性等の問題が提起された（教育部2019a）。文在寅政権は、国政運営5か年計画において、「教室革命を通じた公教育の革新」を明示し、細部課題の一つとして生徒中心の教育課程の改編を提示した。教育部は、この国政課題を具現化するため、2017年12月に幼児教育発展基本計画（2018～2022年）を発表し、幼児中心・遊び中心の教育課程の革新方案を出した（教育部2018）。このような状況の中で、韓国育児政策研究所は、教育部から委託を受け、2018年6月からヌリ課程改正政策研究を行った。また、全国討論会（3回）、現場フォーラム（5回）、現場教師懇談会（3回）、専門家諮問会議（4回）を通して教育

現場及び学系の意見がまとめられ、公聴会、教育部の幼稚園教育課程審議会、保健福祉部の中央保育政策委員会及び、行政予告を経て、2019年7月19日に「2019 改正ヌリ課程」（以下、改正ヌリ課程とする）が確定・発表された。改正ヌリ課程は、2020年3月から幼稚園・オリニジップに共通適用される。改正ヌリ課程の特徴は、幼児中心・遊び中心の教育課程、国家レベルの教育課程としての構成体系の確立、内容構成の簡略化を通じた現場自律性の拡大、教師のヌリ課程の実行力の支援である（教育部 2019b）。また、幸せの主体である幼児が遊びながら成長し、学べるよう構成され、創意的な遊びを通して潜在力を養えることと、未来志向的教育課程として幼児教育の革新が期待できる。なお、国家レベルの共通教育課程が3～5歳のすべての幼児に適用されるため、幼稚園とオリニジップの格差解消効果も期待できるといえる。次の章では、改正ヌリ課程の内容について詳しく紹介する。

3. 2019 改正ヌリ課程の内容について

改正ヌリ課程は、2019年7月24日に韓国の幼児教育法第13条第2項に基づき、改正幼稚園教育課程が告知されており、2020年3月1日より実施することになった（教育部 2019c）。改正ヌリ課程の新旧構成体系を表1に示す。また、改正ヌリ課程の主な内容について、『2019 改正ヌリ課程（案）公聴会資料集』をもとに述べる。

表1 改正ヌリ課程の構成体系の比較

2015 ヌリ課程の構成体系		2019 改正ヌリ課程の構成体系
第1章	ヌリ課程の総論 I 構成方向 II 目的と目標 1. 目的 2. 目標 III 編成と運営 1. 編成 2. 運営 3. 教授・学習方法 4. 評価 ア. ヌリ課程運営の評価 イ. 幼児評価	ヌリ課程の性格（新設） 第1章 総論 I ヌリ課程の構成方向 1. 追求する人間像（新設） 2. 目的と目標 3. 構成の重点 II ヌリ課程の運営 1. 編成・運営 2. 教授・学習 3. 評価
第2章	年齢別ヌリ課程 第1節 3-5歳年齢別ヌリ課程の領域別目標 I. 身体運動・健康 II. 意思疎通 III. 社会関係 IV. 芸術経験 V. 自然探究 第2節 3-5歳年齢別ヌリ課程の領域別内容 I. 3歳ヌリ課程 ア. 身体運動・健康 イ. 内容体系・細部内容（注1） ウ. 社会関係 エ. 芸術経験 オ. 自然探究 II. 4歳ヌリ課程（注2） III. 5歳ヌリ課程（注3）	第2章 領域別目標及び内容 I 身体運動・健康 II 意思疎通 III 社会関係 IV 芸術経験 V 自然探究 注1. イ～オまでの内容は同じ 注2. 第2節のIと同じ 注3. 第2節のIと同じ

出所：教育部ホームページ『2019 改正ヌリ課程（案）公聴会資料集』から筆者作成

（1）2019 改正ヌリ課程の特徴・詳細

①性格について

2019 改正ヌリ課程には、「ヌリ課程の性格」という項目を新設した。その内容は、共通教育課程として地域、機関、個人の多様性を追求するものである。また、「幼児中心・遊び中心」の教育を通して幼児の健やかな発達と幸福、自律性と創意性を追求すると述べており、コミュニティを中心に豊かな人間性を養うことがその内容である。幼児教育の基本的な考えとして「遊び」を通して学びを支援する幼児

中心の「自由遊び」が重要であることが強調されており、幼児の遊び時間を十分に確保ことが何より大切であることが示されている。

②目的と目標について

改正ヌリ課程の目的は、幼児が遊びを通して体の健康とバランスの良い発達を促し、人間性の良い、人間基礎を形成することである。目的として掲げたことを実現するための目標については、「自分の大切さを知り、健康かつ安全な生活習慣を身につける」「自分のことを自ら解決する基礎能力を高める」「好奇心と探求心をもち、想像力と創意力を高める」「日常の中で美しさを感じ、豊かな感性を身につける」「人と自然を尊重・配慮し、対話しようとする姿勢を身につける」と明記されている。2015ヌリ課程の内容から再構成はあるものの、大きく変更された部分は見られなかった。

③構成の重点について

改正ヌリ課程の構成の重点は、改正するに当たり、これまでのヌリ課程の構成方向を見直した項目である。その改正した構成方向の内容はすべての3～5歳の幼児に適用できること、知識・技能・態度・価値を反映して構成することで、追求する人間像を具現化することである。また、2015ヌリ課程で幼児の年齢別に内容が構成されたことに対し、改正ヌリ課程には幼児教育・保育現場の状況や幼児の成長発達に合わせて柔軟な対応ができるよう幼児が経験すべき最小限の内容にするため、年齢別ヌリ課程の詳細項目(267)が削除され、省略化への検討が行われた。なお、乳幼児の保育課程と初等学校⁽²⁾の教育課程と連携することがその特徴として挙げられる。特に、2015ヌリ課程では「3～5歳児の発達特性を考慮して年齢別に構成する」から「3～5歳児が経験すべき最小限の内容で構成する」への変更は、自律性と多様性を高めていくための試みであることが示されている(表2)。

表2 構成の重点の新旧比較

2015ヌリ課程の「構成方向」	2019改正ヌリ課程の「構成の重点」
1. 構成方向 ヌリ課程の構成方向は次のとおりである。 1. 秩序、配慮、協力などの基本生活習慣と正しい人性を養うことに重点を置いて構成する。 2. 自律性と創意性を養うことに重点を置き、全人発達を築けるよう構成する。 3. 人と自然を尊重し、我が文化を理解することに重点を置いて構成する。 4. 3～5歳児の発達特性を考慮して年齢別に構成する。 5. 身体運動・健康、意思疎通、社会関係、芸術経験、自然探究の5領域を中心に構成する。 6. 小等学校の教育課程と0-2歳の標準保育課程との連携性を考慮し、構成する。	2. 構成の重点 ヌリ課程の構成の重点は次のとおりである。 ア. 3～5歳のすべての幼児に適用できるように構成する。 イ. 追求する人間像具現のための知識、技能、態度及び価値を反映して構成する。 ウ. 身体運動・健康、意思疎通、社会関係、芸術経験、自然探究の5領域を中心に構成する。 エ. 3-5歳児が経験すべき最小限の内容で構成する。 オ. 0-2歳の保育課程と小等学校の教育課程と連携性できるように構成する。

出所：教育部ホームページ『2019改正ヌリ課程(案)公聴会資料集』から筆者作成

④編成・運営について

改正ヌリ課程の編成・運営は、細かく指定・明記された内容から、運営する現場や幼児の実情に合わせて、柔軟に対応できるように見直された。その内容は、教育時間は1日4～5時間を基準に、ヌリ課程をもとに現場の状況や実情に合わせて適切な計画を立て運営することである。教育時間の中には外遊びを含めて幼児が十分な遊びができるよう心がけることが明記されている。幼児を差別することなく、成長発達に応じて対応することや家庭・地域社会との協力体制が求められている。なお、教師の研修を通してヌリ課程の編成・運営が改善できるよう持続的研修・研究活動が必要であることが強調されている。さらに、クラスという項目が削除されたこともあり、クラス単位での計画を重視することより幼児

主体で活動ができるよう計画及び実践が可能になる見込みである。これによって計画と運営は、各現場の状況に委ねる方向になった（表 3）。

表 3 編成・運営の新旧比較

2015 ヌリ課程の「編成と運営」	2019 改正ヌリ課程の「編成・運営」
<p>III. 編成と構成</p> <p>1. 編成</p> <p>ア. 1日4～5時間を基準に編成する。</p> <p>イ. 5領域の内容をバランスよく統合的に編成する。</p> <p>ウ. 幼児の発達特性及び経験を考慮し、遊びを中心に編成する。</p> <p>エ. クラス(学級)の特性に合わせて柔軟に編成する。</p> <p>オ. 性別・宗教・身体的特徴・家族及び民族の背景などによる偏見が内容編成する。</p> <p>カ. 業務と運営時間によって深化拡張できるよう編成する。</p> <p>2. 運営</p> <p>ア. 年間、週間、1日計画により、運営する。</p> <p>イ. 室内・外の環境を多様な興味領域に構成する。</p> <p>ウ. 幼児の能力や障害の程度により、調整しながら運営する。</p> <p>エ. 保護者と各機関の実情に合わせて保護者教育を実施する。</p> <p>オ. 家庭や地域社会の協力と参与を元に、運営する。</p> <p>カ. 教師の再教育を通じてヌリ課程の活動が改善できるよう運営する。</p>	<p>II. ヌリ課程の運営</p> <p>ア. 編成・運営</p> <p>次の事項に従い、ヌリ課程を編成・運営する。</p> <p>イ. 1日4～5時間を基準に編成する。</p> <p>ウ. 業務と運営時間によって拡張して編成できる。</p> <p>エ. <u>ヌリ課程を元に各機関の実情に合わせて適切な計画を立て運営する。</u></p> <p>オ. <u>1日の中で、外遊びを含めて幼児の遊びが十分に行えるよう編成して運営する。</u></p> <p>カ. 性・身体的特徴・宗教・家族及び文化的背景などによる差別がないよう編成して運営する。</p> <p>キ. 幼児の能力や障害の程度により、調整しながら運営する。</p> <p>ク. 家庭や地域社会の協力と参与を元に、運営する。</p> <p>ケ. 教師の研修を通してヌリ課程が改善できるようにする。</p>

出所：教育部ホームページ『2019 改正ヌリ課程（案）公聴会資料集』から筆者作成

⑤教授・学習について

改正ヌリ課程の教授・学習について、幼児の自発的遊びである自由遊びが幼児には学びであるため、興味・関心によって楽しく遊びにかかわれるよう心がけることが大切であると明記されている。また、教師は、幼児の遊びを見守る中で幼児の遊びをどのように支援することができるかを工夫すべき点も示唆している。

⑥評価について

改正ヌリ課程の評価については、評価の目的が幼児の視点で行う必要があるため、文書中心の評価ではなく、現場の実践中心の評価が大切であるということが反映されている。そのため、各現場や幼児の実情に合わせて評価項目の検討が行われ、変更・削除することになった。また、幼児中心・遊び中心が保障されることと現場での教育課程運営の自律権が保障できるよう評価の視点を見直した（表 4）。

(2) 領域別の目標及び内容について

前述したように、改正ヌリ課程の年齢別の目標及び内容について、領域別の内容を簡略化したことが大きな変化である。2015 ヌリ課程の5領域の細部内容が広く、現場では幼児への支援が難しいという指摘もあった。このような様々な課題を解決すべく、身体運動・健康、意思疏通、社会関係、芸術経験、自然探究の5領域の内容範疇は三つに、内容は10～13項目に整理したのである。これは5領域を中心とすることは維持しながらも、幼児が経験すべき最小限の内容として構成することになった。これにより、2015 ヌリ課程の5領域における3～5歳の細部内容の267項目が削除されることになった（表 5、細部内容の267項目は省略）。5領域の細部内容が削除されたことによって教師の自律性による柔軟な対応が可能になることや、現場の実情に合わせて実施することがそのねらいである。

表4 評価の新旧比較

2015 ヌリ課程の「評価」	2019 改正ヌリ課程の「評価」
<p>ア. ヌリ課程の運営評価</p> <p>(1) 運営内容がヌリ課程の目標と内容に基づいて編成・運営されたか評価する。</p> <p>(2) 運営内容及び活動が幼児の発達水準と興味・要求に適切であったかを評価する。</p> <p>(3) 教授・学習方法が幼児の興味と活動の特性に適合するかを評価する。</p> <p>(4) 運営環境に幼児の発達と活動の主題、内容及び効率性などを考慮して構成されているかを評価する。</p> <p>(5) 計画案の分析、授業参観及びモニタリング、評価尺度など多様な方法を活用して評価する。</p> <p>(6) 運営評価の結果を反映して運営計画を修正・補充する又は以降のヌリ課程編成・運営に活用する。</p> <p>イ. 幼児評価</p> <p>(1) ヌリ課程の目標と内容に基づき、幼児の特性と変化の程度を評価する。</p> <p>(2) 幼児の知識・技能、態度を含めて評価する。</p> <p>(3) 幼児の日常生活とヌリ課程の活動全般にわたって評価する。</p> <p>(4) 観察、活動の結果物を分析、保護者面談など多様な方法を使って総合的に評価し、その結果を記録する。</p> <p>(5) 幼児評価の結果は幼児に対する理解とヌリ課程の運営改善及び保護者面談の際に資料として活用することができる。</p>	<p>3. 評価</p> <p>評価は次の項目に重点をおき、実施する。</p> <p>ア. ヌリ課程の運営の質を診断して改善するための評価を計画して実施する。</p> <p>イ. 幼児の特性及び変化の程度とヌリ課程の運営を評価する。</p> <p>ウ. 評価の目的によって適切な方法を使って評価する。</p> <p>エ. 評価の結果は幼児に対する理解とヌリ課程の運営改善のために資料として活用することができる。</p>

出所：教育部ホームページ『2019 改正ヌリ課程（案）公聴会資料集』から筆者作成

4. 考察

2012年にスタートしたヌリ課程は、施行8年を迎え、大きく改正された。本章では、改正ヌリ課程の主な内容について次のように三つの考察を加える。

一つ目は、幼児中心・遊び中心の教育課程、国家レベルの教育課程としての構成体系の確立が重要であり、そのためヌリ課程の性格及び人間像について明示することになった。この内容は幼児が好きなことをしながら、時間を過ごせるよう自由遊びの時間を十分に確保する「幼児中心・遊び中心」ということである。遊びは学びのきっかけをもたらす活動であり、遊びを通して豊かな経験・感性が養われると考えられる。また、自らやりたいことを遊びとして取り入れることや他者とのかかわることを通して子どもの主体的学びへの期待感も高まると考えられる。しかし、幼児中心・遊び中心については、遊びの定義・範囲を明確に定めていないため、曖昧な意味として理解される可能性があるという指摘もある（教育部2019a）。

二つ目は、内容構成の簡略化を通じた現場自律性の拡大については、ヌリ課程の最小化と運営の自律性及び多様性の保障のために、「構成方向」「編成・運営」「教授・学習」の内容が改正された。内容における項目を細分化から統合・簡略化へと改正されており、現場の状況に合わせて柔軟な計画及び実践ができるよう検討された。また、「編成・運営」における「クラス（学級）」が削除されたことについては、幼児の活動の編成や運営についてクラスを意識せず、異年齢間の交流を活発に行うという意味としても理解することができる。領域別目標及び内容の年齢別ヌリ課程を削除することで、教師の能力や現場の実情に合うよう自律性を優先する方向へと転換するようにもうかがえる。教師の専門性や経験などが問われることへの不安という見方もあるが、現場の特色と教師の専門性や経験などを生かすことと学校教育の一環として行われてきた一斉教育が少しずつ自由遊びへと変わるという期待感が高いといえる。

三つ目は、教師のヌリ課程の実行力の支援においては、ヌリ課程評価の過度な細分化を簡略化することによって、教師は評価に対する負担を軽減できることから、幼児との時間を多く確保できることにつながり、幼児教育の質の向上にも貢献できると考えられる。しかし、幼児と教師が一緒に作り上げる幼児の自由遊びが中心となる評価への転換は必要不可欠であるが、評価記述については混乱を招く可能性

韓国の「2019 改正ヌリ課程」に関する研究

があると考えられ、評価については一定に基準を定める必要があると考えられる。

表 5 ヌリ課程の領域別の内容の新旧比較

2015 年 ヌリ課程の領域別の内容			2019 年 改正ヌリ課程の領域別の内容		
領域	内容範疇	内容	内容範疇	内容	
身体運動・健康	身体認識・理解	感覚能力を育ち、活用する 身体を認識し、動かす	身体活動を 楽しむ	身体を認識して動かす 身体の動きを調整する 基礎的運動や道具を利用して運動する 室内外の身体活動に自発的に参加する	
	身体の動きと基本的運動	身体調節をする 基本運動をする			
	身体運動への参加	自発的に身体活動に参加する 屋外で身体活動をする 器具を利用して身体活動する			
	健康な生活	身体と周辺を清潔にする 正しい食生活をする 健康な日常生活をする 病気を予防する	健康な生活	自身の身体と周辺を清潔にする 身体に良い食べ物に関心を持ち、正しい姿勢で楽しく食べる 1 日中、適度な休憩をとる 病気・疾病を予防する方法を知り、実践する	
安全な生活	安全な生活	安全に遊びをする 交通安全のルールを守る 非常時に適切に対処する	安全な生活	日常生活の中で安全に遊び、生活する TV・PC・スマートフォンを正しく使う 交通安全のルールを守る 安全事故、火災、災害、虐待、誘拐などへの対処方法を知り、行動する	
	意思疎通 (コミュニケーション)	聞く	単語と文章を聞いて理解する 話を聞いて理解する 童話、童詩、童話を聞いて理解する 正しい態度で聞く	聞くことと 話すこと	話や物語に関心を持って聞く 感じたこと、考えたこと、経験を話す 状況に合わせて適切な単語を使って話す 他人の話聞いて関連して話す 正しい態度で聞いて話す 正しい言葉を使う
		話す	単語と文章で話す 感じたことや考えたこと、経験を話す 状況に合う正しい態度で話す		
		読む	読みに興味を持つ 本を読むことに関心を持つ		
書く	書くことに関心を持つ 書く道具を使用する	本と物語を 楽しむ	本を読むことに関心を持ち、想像することを楽しむ 童話、童詩において話と言葉の楽しさを感じる 言葉遊びと物語を作ることを楽しむ		
社会関係	自分を知り、尊重する	自分を知り、大切に 自分のことは自分です	自分を知り、 尊重する	自分を知り、大切に 自分の感情を知り、状況に合わせて表現する 自分のできることは自分です	
	自分と他人の感情を知り、調節する	自身と他人の感情を知り、表現する 自分の感情を調節する	共に生活する	家族の意味を知り、仲睦まじく過ごす 友たちと助け合いながら仲良く過ごす 友たちとのトラブルを肯定的な方法で解決する お互いの感情、考え、行動を尊重する 日常でマナーを守って行動する 約束と規則の必要性を知り、守る	
	家族を大切に する	家族と仲睦まじく過ごす 家族と協力する			
	他人とともに 生活する	友たちと仲良くする 共同体で穏やかに過ごす 社会的価値を知り、守る			
	社会に関心 を持つ	地域の社会に関心を持ち、理解する 我が国に関心を持ち、理解する 世界諸文化に関心を持つ	社会に関心 を持つ	住んでいる地域についてわかる 我が国に対して自負心を持つ 多様な文化に関心を持ち、文化の多様性を尊重する	
芸術経験	美しさを探 す	音楽的要素を探索する 動きとダンスの要素を探索する 美術的要素を探索する	美しさを探 す	自然と生活で美しさを感じて楽しむ 多様な芸術的要素に関心を持ち、探す	
	芸術的表現 をする	音楽で表現する 動きとダンスで表現する 美術活動で表現する 劇遊びで表現する 統合的表現	創意的表現	多様な歌を楽しく歌う 身体、物事、楽器を用いて簡単な音とリズムを作ってみる 身体や道具を活用して動きやダンスで自由に表現する 多様な美術材料と道具で自分の考えや感じたことを表現する 劇遊びで経験した物語を表現する	
	芸術を鑑賞 する	多様な芸術を鑑賞する 伝統芸術を鑑賞する	芸術を鑑賞 する	多様な芸術を鑑賞して想像することを楽しむ お互いの芸術表現を尊重する 我が国の伝統芸術に関心を持ち、親しくする。	
自然探究	探究する姿勢を身につける	好奇心を維持し、広げる 探究過程を楽しむ 探究スキルを活用する	探究過程を 楽しむ	周辺世界と自然について持続的に好奇心を持つ 気になることを探究する過程に積極的に参加する 探究過程においてお互いの考えに関心を持つ	
科学的探究	数学的探究	数と演算の基礎概念を知る 空間と図形の基礎概念を知る 基礎的測定を知る 規則性を理解する 基礎的資料収集と結果を示す	生活の中で 探究する	物体の特性と変化を様々な方法で探索する ものを数えて数量を知る ものの位置と方向、形を知り、区別する 日常で長さ、重さなどを比較する 周辺で繰り返しの規則を探す 日常で集めた資料を基準により分類する 道具と機械について関心を持つ	
	科学的探究	物体と物質を知る 生命体と自然環境を知る 自然現象を知る 簡単な道具と機械を活用する	自然と共に 生きる	周辺の動植物に関心を持つ 生命と自然環境を大切に 天気と季節の変化を生活と関連づける	

出所：教育部ホームページ『2019 改正ヌリ課程（案）公聴会資料集』から筆者作成

5. おわりに

本研究では、韓国のヌリ課程について導入及び改正の背景、主な内容とその期待効果について検討を行い、考察を加えた。改正ヌリ課程は、2020 年 3 月から実施される予定であり、幼児の主体的活動を積

極的に取り入れるとする幼児中心・遊び中心への改正は、大きな教育改革ともいえる。これまでの教育課程では、結果中心である「学び」は求めやすかったことに対し、プロセス中心の感覚的活動である「遊び」は求めにくい、求められなかったかもしれないのが現状であった。幼児は、遊びを通して大きな「学び」を得るに違いない。幼児における最大の「学び」は「遊び」であることを共感していく必要がある。また、領域の過密な年齢別内容が削除されたことで、教師が幼児の遊びを支援するに当たり、型にはめることなく、柔軟に対応する力が少しずつ高まると予測できる。なお、クラス概念がなくなる現場が増え、年齢が異なる幼児間の交流活動が盛んになることが期待できる。

改正ヌリ課程を現場に成功的に定着させ、これらの効果を生み出すためには、ヌリ課程解説書及び現場支援資料を配布し、研修を実施して教師の専門性を強化する必要がある、保護者の遊びに対する認識を引き上げる必要がある。また、幼稚園とオリニジップの室内・外遊び空間を再構成し、幼児が遊び文化を主導する創意的な空間を整備できる方案も提示されなければならない（教育部 2019b）。これらの支援策を政府がどのように実行していくのが今後の課題であると考えられる。

【注】

(1) 韓国の保育施設には、幼稚園とオリニジップがある。幼稚園は、幼児教育のための学校（幼児教育法第2条第2号）であり、教育部（日本の文部科学省に当たる省庁）が管轄している。オリニジップは、「子どもの家」という意味であり、乳幼児を保育する機関（嬰幼児保育法第2条第3号）であり、保健福祉部（日本の厚生労働省に当たる省庁）が管轄している。

(2) 初等学校は、日本の小学校に当たる教育機関である（初・中等教育法第2条第2号）。

引用・参考文献

厚生労働省（2019）「幼児教育・保育の無償化について」（https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_01659.html，閲覧日 2019年9月20日）

教育部（2015）「教育部告示第2015-61号 改正幼稚園教育課程」（<http://www.moe.go.kr>，閲覧日 2019年8月21日）

教育部（2018）「幼児教育発展基本計画」（<http://www.moe.go.kr>，閲覧日 2019年8月21日）

教育部（2019a）『2019改正ヌリ課程（案）公聴会資料集』（<http://www.moe.go.kr>，閲覧日 2019年8月21日）

教育部（2019b）「報道資料 2019改正ヌリ課程確定・発表」（<http://www.moe.go.kr>，閲覧日 2019年11月1日）

教育部（2019c）「教育部告示第2019-189号 改正幼稚園教育課程」（<http://www.moe.go.kr>，閲覧日 2019年8月21日）

国家法令情報センター「嬰幼児保育法」「幼児教育法」「初・中等教育法」（www.law.go.kr，閲覧日 2019年11月1日）

統計庁（2019）「人口動態件数及び動態率推移」（<https://www.kostat.go.kr>，閲覧日 2019年9月24日）

保健福祉部「保育政策—保育基盤（3～5歳年齢別ヌリ課程）—」（<http://www.mohw.go.kr>，閲覧日 2019年8月21日）

ヨンジヒョン・カンインソン（2018）「教育の公共性強化のためのヌリ課程の発展方向に関する研究—葛藤原因と発展方案を中心に—」『社会科学論叢』21（1），131-155